

Title	日本語・日本文化 第31号 奥付
Author(s)	
Citation	日本語・日本文化. 31
Issue Date	2005-05
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/21288
DOI	
rights	本文データはCiNiiから複製したものである

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

執筆者紹介（掲載順）

中井 淳史 本センター非常勤講師
Bertelli, G. Antonio 本学大学院博士後期課程
梅村 修 追手門学院大学助教授
大塚 淳子 本センター非常勤講師

編集後記

31号では、研究論文2点、研究ノート2点の計4論稿が掲載できた。この内、宮沢賢治が晩年に設立した羅須地人協会での活動を分析し賢治の実像に迫るベルテリ論文は本センターでかつて学んだことのある大学院生よりの投稿であり、前号、前々号に引き続き、こういった論稿が採用できたことは喜ばしい限りである。

ところで、今号より、本誌の発行母体は「留学生日本語教育センター」から「日本語日本文化教育センター」に変更された。これは、本センターが昨年度の日本語予備教育開始50周年と本学の国立大学法人化を契機として、自らの将来像について検討を重ねた結果、今年4月1日付けをもって、改称することになったからである。この名称変更に伴い関連諸規程も全面的に改正され、設置目的には、従来から行ってきた「外国人留学生に対する日本語、日本文化等の教育及びこれに必要な調査研究」に加え、今回新たに「国際的な教育連携を図り、世界の日本語・日本文化教育の充実発展に寄与することを目的とする」という理念が盛り込まれた。

すでにセンターを窓口する学術交流協定校は16大学を数え、協定校と連携した国際シンポジウムの開催、教育実態調査を目的とした教員の海外派遣など、この理念の表明以前から様々な活動が実行に移されてきた。本誌としても、機関研究誌の機能を維持しつつ、「国際的な教育連携」を視野に入れた誌面の再構成を急ぐ必要がある。（H.K）

『日本語・日本文化』投稿規定

1. 資格：本センター所属教員（非常勤を含む）及び『日本語・日本文化』編集委員会において適当と認められた者。
 2. 内容：日本語・日本文化等に関する未発表の研究論文・研究ノート・研究報告等。
 3. 体裁：研究論文は400字詰原稿用紙50枚前後（欧文はA4ダブルスペース30枚前後）、研究ノート・研究報告は25枚前後（欧文は15枚前後）。
 4. 要旨：本文和文の場合、欧文による要旨（A4ダブルスペース1枚）を、欧文の場合は、和文による要旨（800字程度）を添付。
 5. 採否：原稿の採否は『日本語・日本文化』編集委員会が決定。
-

編集委員

加藤 均 小林明美* 五之治昌比呂
山川 太 岸本恵実

*定年退職のため任期は2005年3月31日まで。

日本語・日本文化 第31号

2005年5月30日 発行

編集 大阪外国語大学
発行 日本語日本文化教育センター
〒562-8558
箕面市粟生間谷東8-1-1
電話 (072)730-5459
FAX (072)730-5074
印刷 中西印刷株式会社